

銀行界  
世界副  
總裁

# 時代の風 西水美恵子

世直しの方は、若者・よそ者・変わり者にあると、世界各国の草の根で教わった。むしろ日本も例外ではない。その一例が地域おこしに動く人々。全国各地どこに行っても必ず出会う。

先月の本欄に書いた大分県国東半島に誘ってくれたのも、大分を元気にと活動する「ふないまちなか大学」の若者たち。民間企業やNPOの有志と地方自治体の職員らが、県内外の地域おこし活動から学び、まず自分たちにできることから協力している。

その若者たちが、明るい国東の未来を目指す企業家を紹介してくれた。株式会社アキ工作社(大分県国東市安岐町)の松岡勇樹社長。1998年、建築家として活躍していた東京から故郷安岐町にUターン、創業した。「僕は変わり者ですか

## 地域おこしから学ぶ

ら」と、松岡氏が笑った。アキ工作社の主要事業は超細密段ボールクラフトの製造販売。松岡氏が開発し、ディー・トルン・システムと名付けた立体造形システムを駆使して、国内はもとより世界各国で展示や、陳列、内装、特殊包装など広い分野の立体商品を扱う。

段ボール製組み立て式マネキンと言えば、思い当た

る読者も多からう。ニューヨーク5番街の陳列窓で初めて目にした時、その斬新奇抜なデザインに息をのんだのを覚えている。非連続的なO.T.Sキャンに輪切りにされたマネキンのイメージで、段ボールシートが内部構造丸見えのまま人の形に再構築されている。際立



—竹内紀田撮影

# 高めたい 時間の質

つのに自己主張をせず、服装の色彩とデザインを見事に引き立てていた。

大分空港から北西へ15分ほど行くと、半島の中心、両子山の懐に入る。谷あい

が急に狭まるあたりの深流に沿いに、山際の集落と向かい合って可愛い学校がたっていた。アキ工作社の拠点である。少子化で廃校にな

った旧西武蔵小学校だが、生き生きとしていて、今にも子供たちが校庭に走り出

て来るかのよう。

小ぶりなげた箱がほほ笑ましい玄関を入ると、校長室が社長室。教員室はデザイン兼事務室でアップル最新型機材がずらりと並ぶ。

「学校は地域社会の焦点。思い出を壊さないように使うのは当たり前です」と、松岡氏。「手ごろな賃借料